

【評価報告書】

学校法人櫛渕学園 ちぐさこども園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取り組み		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～14
第三者評価確認書類リスト	非公表	P15～P16
公開保育への取り組みの様子（写真）	非公表	P17
第三者評価結果（詳細）	非公表	P18～P35

（公財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	ちぐさこども園
運営法人名称	学校法人榊渕学園
施設種別	幼保連携型認定こども園
代表者氏名	理事長 榊渕 光彦
施設所在地	群馬県沼田市柳町394
電話番号	0278-23-3324
FAX番号	0278-23-3524
ホームページアドレス	www.chigusa.ed.jp
メールアドレス	info@chigusa.ed.jp
事業開始年月日	平成28年4月1日（幼稚園；昭和38年12月10日）
教職員・従業員数	42名
施設・設備の概要	木造平屋 800㎡、鉄骨2階建 304㎡、園庭 1,108㎡

【理念・基本方針】

「子供がいる幸せを感じられる社会」を目指し、子供の“今”の幸せを追求し、彼らが創る幸せな“未来”の社会づくりに貢献します。同時に、子供の周囲の大人のより良い社会づくりに貢献します。

そのために、「意欲・感性・思いやり」を保育目標として、子供一人一人の心に寄り添う丁寧な保育に園全体として取り組んでいきます。

【施設の特徴的な取り組み】

- ・創立以来の全園的な研鑽体制に基づく丁寧な保育
- ・学童クラブ併設により、0-12歳の子供が育ち合う環境

【評価機関情報】

評価機関名	(公財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和元年7月12日
評価者	H29A00736、R01B00936
公開保育コーディネーター・支援者	EH25270033、EH25100011

【総評】

●総合評価

評価〔A〕

創立以来、幼児教育を丁寧に紡ぎ、地域の中でなくてはならない存在として成長している様子がうかがえた。幼稚園と保育園をちぐさこども園として統合後も、地域、保護者からの信頼を得る中で、社会に開かれた園として質向上に意欲的に取り組む姿が見られ、恵まれた環境や職員間の良好な関係により、子供の発達に応じた優れた保育を実践している。今後は幼稚園教育要領等の改訂を踏まえ、保育の全体的な計画の見直し、さらなる職員間の連携・情報共有を図り、地域の幼児教育の拠点として乳幼児期の育ちを支えていくことを期待する。

●特に評価が高い点、園の良さ等

教育目標である「意欲ある子供、思いやりのある子供、感性豊かな子供」の育成に向け、子供との対話、子供同士の話し合いや本物体験を大切にした保育に取り組んでいた。また、毎日ミーティングを行う等、園長、主任のリーダーシップのもと、保育者同士のチームワークを大切にして研修に取り組んでいる。学童クラブも併設し、0～12歳までの子供同士の育ちの場を創造しようとする取組に地域社会への貢献が伺える。

●課題、改善を求められる点

改訂された幼稚園教育要領等の3つの資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿等も踏まえて、長期、短期の計画の見直しを期待する。また、日々の生活習慣に関する事項に対し、子供自らが気づき、考え、工夫したりする環境設定が必要かと思われる。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

当園が大切にしている「園全体での丁寧な保育」「地域との共生」を高く評価頂いたことを嬉しく思う。これを励みにして、地味ながらも保育の根幹となる当園の強みを一層強化すべく、日々の地道な取組みを重ねていきたい。

また、指摘頂いた改善事項は、当園でも課題に感じながら取組みが不十分な点であるので、今評価結果を契機に課題を全園で共有して、次年度以降重点的に取り組んでいきたい。

第三者評価結果

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

保育の質向上への取組に対し全職員が自覚し、園全体に浸透していること、また職員間の関係性が良好であり、日々の保育について語り合う土壌があることが自覚的な良さとして挙げられていた。一方で、子供自身が自由に発想し、遊び込むことができているか、子供の主体性を十分に引き出していないのではないかという課題意識を持っていた。

2. ①公開保育実施時の課題等

(0歳児)①環境設定や保育者の関わりについて(1歳児)保育者の個を意識した関わりについて(2歳児)子供たちが遊びを選択できる自由度について(3歳児)子供たちがやりたいことが十分にできる環境設定について(素材や道具)(4歳児)子供それぞれの興味やペースを活かしながら、子供同士の関係を繋いでいく保育について(5歳児)子供の主体性を育む保育について(環境設定や保育者の関わり)

②公開保育後のカンファレンスにおける外部から見た良さや課題

【良さ】(0～2歳児)やりたいことが十分にできる環境設定・安全面への配慮(3～5歳児)・十分な遊び時間の保障・遊びの素材の豊富さ・遊びへじっくりと取り組む姿・子供の興味関心へ寄せる保育者の姿・子供が自ら主体的に取り組むことができる環境等【課題】(0歳児)発達課題を見据えた対応(1歳児)活動の必要性・目的・方法の見直し(2歳児)イヤイヤ期における発達理解と関わり(3歳児)遊び込むことへの援助(4歳児)発達への見通し(5歳児)遊びの協力者としての保育者の役割

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

・子供が自由にやりたいことに取り組むことができる環境構成(コーナーや素材等の工夫)・伸び伸びと主体的に活動する子供の姿・子供の主体性を育むための保育者の姿勢や眼差しについて、参加者から園の良さとして認められていた。一方で、子供たちの自由な発想を保育者がどのように取り上げ、遊びの中に活かしていくのか、子供同士の繋がりを深めるために保育者はどのような援助や環境での工夫が必要か、また子供の育ちについて保護者へどう伝えるか課題として挙げられたことから、今後も日常的・継続的に保育の共有を行い、子供からの発想や働きかけを大切にすると同時に、発達に応じ、幼稚園教育要領等の改訂を踏まえたカリキュラムの見直しを行うことの必要性が語られていた。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

<A 教育・保育>

① 子供の人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子供の家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	済・未
2	子供や保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	済・未
3	身体、性、年齢、発達の差等、生来的な差によって子供に不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	済・未
5	子供の成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、先生と子供に、共に大切に扱われている。	済・未
7	全ての子供が「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子供集団（学級）のなかにある。	済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子供たちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	済・未
<p>（コメント）</p> <p>子供が子供らしく、安心して安全に生活することができる園舎設計がなされ、木製の温かさに包まれて生活することができる環境を整えている。ホールを中心として、どのスペースも開放的であることから、子供はもちろんのこと、保育者も明るく、健康的な姿が見受けられた。食育に関する園内研修も実施しており、最新設備で作る昼食やおやつ等、食べることの大切さを教育の根幹ともしており、心身共に健康な子供の育成に取り組んでいた。何気ない生活習慣の獲得については、見える化を施すこと等、改善する余地も見られる。</p>		

②保育者の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	教職員一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子供と関わることを喜び、子供の遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	教職員一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>毎日ミーティングを行う等、園長、主任のリーダーシップのもと、保育者同士のチームワークを大切にしながら、園内研修に取り組んでおり、保育の質向上に園全体で取り組んでいる。</p>		

③ 子供理解・指導の計画等・環境・実践・記録振り返り

1) 子供理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子供の内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を教職員全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子供の姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子供理解に努めている。	済・未
3	子供の記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子供理解の共有を教職員間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子供の成長とどう関連しているのか？記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子供の育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子供理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子供一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子供の家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子供理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>日々のミーティングによる語り合いや記録を通して、様々な手法で子供理解に努め、保育実践に活かしている。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子供の発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子供の発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子供の状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>改訂された幼稚園教育要領等に則り、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿等も踏まえての、長期、短期計画等の見直しは園としても今後の課題として認識していた。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子供たちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子供の自主性・自発性を尊重すると共に、子供同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未
2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子供の成長に合わせた遊具や絵本が、子供の手の届く場所に適切な量で用意され、子供が自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子供が安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<リズム・造形等の表現活動などについて>リズム・造形等の多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子供たちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子供の身体にあった大きさを整えられ修繕されている。	済・未

(コメント)

手洗い、排泄等における生活習慣獲得のための環境設定の工夫や、園庭をはじめとした遊具の安全に関する環境設定等、子供たちが主体的に取り組むことができるような工夫が必要と思われる。

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子供が保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p> <p>(3)子供が友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子供の発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子供が落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	済・未
2	<p>子供の生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子供が主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子供が自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子供の主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子供が周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子供の発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子供が主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子供が発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未

4	<p>子供一人一人の特性や発達のプロセスに応じた指導をしている。</p> <p>(1)子供一人一人の発達のプロセスや生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子供が主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子供一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子供（障害のある子供を含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子供との生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未
5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子供が季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子供が行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子供が地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p>	済・未
<p>(コメント)</p> <p>園行事においては、地域とも連携した行事のあり方等を工夫し、地域の中の園としての役割も果たしつつ実施している。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	<p>個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子供の状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。</p>	済・未
2	<p>記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。</p>	済・未
3	<p>適宜、保育者間のカンファレンスが行われ、実践の振り返りと適切な評価の機会がある。</p>	済・未

4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子供の育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、日々の事柄が丁寧に積み重ねられていた。またそれらを通して適切にカンファレンスが実施されており、園として共有されていた。</p>		

④家庭・地域連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子供の成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子供の生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子供が豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保護者に対し写真等を利用して子供の成長を伝えるなど、工夫して連携している様子が伺えた。また、自己評価や関係者評価も適切に実施されており、課題改善の手立てとなっていた。</p>		

公開保育コーディネーターからの報告

ちぐさこども園は1963年の開園以来、一貫して、一人一人の子供を大切に丁寧な保育に努めてきた。これまでも、県協会指定公開保育や全国大会・関東大会での発表に取り組む等、園長をはじめ教職員が保育の質の向上を目指し努力を積み重ねてきた。現在も毎月のテーマ別に園内研修を行うなど、保育者同士の関係性の良さを生かしながら主体的に保育の質向上に取り組んでいるが、幼稚園教育要領等の改訂を踏まえ、「今」の保育が子供たちにとって「未来」を見据えた保育となっているのかという課題意識をもっている。

今回の公開保育では、子供にとってより豊かな保育環境、保育者の意図性と子供の主体性のバランス等を具体的な課題として取り組んだ。公開保育後の意見交換では子供が伸び伸びと主体的に活動する姿やそれを支える環境構成や保育者の姿勢等に肯定的な意見が寄せられた。今後の課題としては子供の主体性と保育者の意図性のバランスや子供同士の関係を繋ぐ保育者の関わりや家庭との子供の成長の姿の共有等が挙げられた。

現在も保育者同士が同僚性に支えられ、質の高い幼児教育が実践されているちぐさこども園ではあるが、子供理解から始まる保育、0歳から6歳までの発達に応じたカリキュラム編成、保育の中で何が育っているかの共有等について今後も努力を重ねられ、大きく時代が変化していく中で、子供たちが将来の社会で自分らしく生き抜く力を育む幼児教育の質向上を図られることを期待する。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価 評価者記載

< B 運営 >

①運営体制

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未	運営規則
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未	運営規則
3	会計事務を適切に行っている。	済・未	会計簿等
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未	就業規則等
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未	ミーティングを毎日実施 研修計画書 研修報告書
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未	事業活動収支計算書 貸借対照表
7	学校評価を実施している。	済・未	自己評価報告書 学校関係者評価報告書
8	適正な法人運営を行っている。	済・未	事業報告書
<p>(コメント)</p> <p>適正な法人運営のもと良好な教育環境が提供されている。 安定した運営が行われており、コンプライアンスもしっかりしている。 建物の新築にあたっては財務運営上問題はなく、常に子供の教育のための施設レベルの向上に向けた取組が行われており、良質な法人運営が行われている。</p>			

②安全管理

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未	防災対応マニュアル 安全計画書 安全点検表 事故感染症対応マニュアル
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未	
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未	
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未	
(コメント) 事故等を想定したマニュアルを策定したり、アレルギー対応食申請書兼同意書を備える等、園児の安全管理に努めている。			

③子育ての支援

	調査項目	確認結果	確認・評価視点等
1	学び発達の連続性を確保するために、小学校と連携をはかり、地域の関係機関や団体と交流し連携をはかっている。	済・未	面談
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取り組みを行っている。	済・未	
(コメント) 地域の関係機関と連携し、家庭教育の支援に努めている。			